

# 抑制キュウリ栽培の初期生育の確保と収量の向上

対象者 抑制キュウリ栽培生産者

### 【普及活動のねらい】

管内では7月下旬に定植するキュウリの抑制栽培が取組まれています。昨年度、夏季の高温対策として、これまで実施されてきた「葉水」に ICT バルブを組み合わせた自動散水技術を導入し、初期成育の確保と収量の向上につなげました。しかし、ICT バルブの導入が難しい農家や、活用できる期間が短い農家があること、設定の目安となる指標がなく、具体的な活用方法を農家同士が相談しにくいなどの課題が残りました。そこで本年度は、温湿度ロガーを農家有志ほ場に設置し、温湿度データと栽培管理の考え方を共有するとともに、ICT バルブの指標の作成や長期間活用できる散水資材の導入により初期生育の確保と収量の向上に向けた支援をしました。



農家毎の温湿度データを解析した資料による意見交換

### 【普及活動の内容】

#### 栽培管理を相談し合える雰囲気づくり

部会の同意を得て農家有志6戸のほ場に、クラウド上でデータ共有できる温湿度ロガーを設置し、温湿度データをキュウリ生産者がお互いに確認し合える環境を整備しました。毎週個別訪問し、草勢と併せて、クラウドによる温湿度の推移を農家とともに確認し、栽培環境が生育に及ぼした影響を考察し、生育改善のための助言、指導を行いました。また、共選出荷に生産者が出荷場に集まることから、8月から9月にかけて延べ3回、農家毎の温湿度データを解析した資料を提供して、意見交換の場を設定し、栽培管理について農家同士が気軽に相談し合える雰囲気づくりに努めました。

#### 新たな散水方法の提案と ICT バルブの効果的な活用

長期間活用できる頭上から散水できる散水チューブの展示ほを設置し、昨年度の使用実績や温湿度データ、気象予報を生産者とともに分析し、散水方法毎に適した葉水の実施時間と温度設定（指標づくり）について支援しました。

### 【普及活動の成果】

これらの活動により、ICT バルブを導入していない農家も含めて、ハウスの温度や湿度を確認しながら管理する意識付けにつながりました。新たな散水方法に変更した生産者は、ICT バルブを気温の低下する10月まで有効に活用し、昨年度を大幅に上回る収量となりました。ICT バルブを導入した農家4戸の総出荷量は、夏季の収量が改善された昨年度をさらに上回りました。生産者の間では、温度や湿度を意識した栽培管理が定着したことで、飽差管理に対する関心が高まり、湿度を意識した栽培管理ができたことで秋季の生育が向上した生産者もでてきています。当課では、今後も ICT バルブやクラウド等のスマート農業技術を活用した産地の維持、活性化につながる取組を続けてまいります。